

令和6年度 第2回菊川市地域公共交通会議

会 議 録

場 所	E301会議室（本庁舎東館）	日 時	令和6年11月6日（水） 午後2時30分～午後3時30分
-----	----------------	-----	---------------------------------

報告事項

1 開会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 菊川市地域公共交通網形成計画の成果指標に基づく評価（令和5年度）について（資料1）
- (2) 令和7年度コミュニティバス（定時定路線運行）の運行案について（資料2）
- (3) 菊川市地域公共交通運賃料金協議会の完了について（資料3）
- (4) 菊川市地域公共交通計画策定における進捗状況について（資料4）

4 その他

（次頁から議事録を掲載）

議 事 録

1 開会

●事務局

地域公共交通会議を開催する。

委員17名のうち出席者13名、代理出席2名であり、15名が出席。出席委員が過半数を超えているため、菊川市地域公共交通会議設置要綱第6条により会議は成立。

2 あいさつ

●会長

〈あいさつ〉

3 議事

●事務局

これより議題に入るが議事の進行については、菊川市地域公共交通会議設置要綱第6第1項の規定により会長に議長をお願いする。

(1) 菊川市地域公共交通網形成計画の成果指標に基づく評価（令和5年度）について【報告】

（資料1）

●事務局から説明

菊川市地域公共交通網形成計画の成果指標に基づく評価について、各コースの令和4年度と令和5年度の乗車人数を比較した。西方コースについて、令和4年度は4,906名の利用があったが令和5年度は4,602名と減少しており、増減率が93.8%となっている。このことについて、バス停ごとの乗降人数を確認したところ、菊川駅や菊川市立病院、えんてつ菊川ショッピングセンターなどの主要施設での利用乗降者数が減少していることが要因であると考えられる。さらに三沢・河東コースについても同様の減少がある。

このことについて、2年間の比較の中では評価や確認が難しい。令和2年度からの人数の推移を見てみると増減の幅は近似値を取っているものと考えられる。

三沢・河東コースについては、令和2年度に1,760名、令和3年度2,559名、令和4年度は2,910名と、他の路線と比較して乗降者数が上下しているように見受けられる。これについても、乗降者数は減少しているが、長い目で見ながら確認していきたい。

デマンドについて、令和5年度の三沢河東コースの乗降者数が令和4年度237名から68名へと大きく減少した。これは、病院など、特定の利用者の通院利用の回数が減少した、といった要因が見られるのではないかと考えられる。そうした中で、今年度は令和5年度末から連合自治会や民生委員さんの皆様方に地域の公共交通について周知をする場を設けたらどうか、というようなご意見をいただき、民生委員や各地区の自治会の方に周知活動をさせていただいた。その結果であるかは不明だが、令和6年の9月末までに108名と、少し増加している状況である。奈良野、布引原コースも令和6年度の半年で順調に利用されているところが見受けられ、デマンド全体で、既に令和5年の388名に近い数字の利用を得ている。

市としては今後も、委員の皆様から乗降のエリアの拡大や、降車エリアの拡大等のご意見をいただきながら改善をしていく。

意見・質問

○委員

西方コースが減少しているとのことであったが、えんてつ菊川ショッピングセンターの乗降者数が460人減少しているのに対して、全体的には300人減少している。えんてつ菊川ショッピングセンターがなくなったということではないか。

●事務局

えんてつ菊川ショッピングセンターがなくなったわけではなく、他の乗降場所での利用が増えている。近場の乗降場所でも満遍なく利用がされていると考えられる。

○委員

デマンドについて、降車エリアを拡大することで降車が増えているのか。

●事務局

降車について、降車エリア内なのかバス停なのかは把握していない。今後事業者と確認していく。

○委員

令和5年度の実績に基づく評価の「目標値」について、平成28年は51.8%であったが、その後は30~40%で推移している。この減少の理由は何か。

期待値についても、令和5年度は1日当りの利用者数141、利用しやすい交通手段が確保されたまちだと思う市民の割合が55.9%であり、令和7年度はそれぞれ145、59.0%、とかけ離れた数値が記載されている。この数値についての根拠は何か。

現在コミュニティバスは菊川市立総合病院を中心に路線が組まれているが、コミュニティバスを利用していない方が他にどのような手段で通っているのか。家族の送り迎えや自家用車など、他の交通手段を掴むことができればいい。

●事務局

目標値については、計画を定める中で、最初の数値を使用し、徐々に上昇していくような形で数値設定を行った。実際に令和5年で128.9人と減少しているが、令和元年のコロナ禍から極端に利用者が減少したことが大きな要因である。コロナ禍による極端な減少がなかった場合、利用者数は推移的に上がっていき、期待値に近いところまではきていたと予想できる。

評価指標にある「1日当りの利用者数」と「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思う市民の割合については、公共交通網形成計画の上位計画である、菊川市総合計画と同じものを使用している。必ずしもコミュニティバスや路線バスの利用がしやすい、という指標ではなく、駅やインターのような施設的な面も含まれている。

菊川市立総合病院の利用者については、現在公共交通計画を策定しており、病院やスーパーなどの主要施設で利用者アンケートを実施している。その中で実際に利用している方の意見などを皆様にお示ししていく。

○委員

来年は評価指標の、「利用しやすい交通手段が確保されたまち」を「公共交通手段」に限定することもできるのか。

●事務局

何かしら異なる指標がないと評価しづらいという点で、前々から皆様にご意見をいただいているため、計画策定にも先立ってもう一つ違った指標の考え方というのでも検討していきたいと考えている。この評価指標に追記ができるかというところは、庁内の部署と確認を取りながら連携していきたいと考えている。

○委員

私は西方地区に住んでいるが、西方コースの乗降者数が減少した理由は超高齢者の方々がバスに乗れなくなったことが原因であると思う。団塊世代の方は運転ができるため自分で出掛けることができるが、今後自分たちの代がコミュニティバスを使う機会が増える。利用するにあたって、バス停への屋根の設置や、回数券（5枚、10枚）の導入を希望する。

○委員

どの地域も高齢者が増加し、子どもが減っている。つまり高齢化が進んでいるということであり、潜在的な利用者は増えていくはずである。だが、超高齢化となるとコミュニティバスも自家用車も乗ることができない人が増える。コースごとの乗降者数では、沢水加コースが順調に伸びている。これは地元の意見を取り入れてコース変更をしたことなどが功を奏したと思う。全路線の乗降者数を順調に伸ばしていくため、より地元の意見を取り入れていただきたい。

○委員

西方コースの菊川病院での乗降者数が減ったことについて、今まで通院していた高齢者が施設に入ったり、亡くなったりしていることも理由としてある。親と同居していない、新しい場所に家を建てて一人で住んでいる年配の方も多い状況である。そのような世帯の把握等については市で確認することも必要である。

●事務局

高齢社会が進んでいくにあたり、世帯の構成員の状況も変化する。コミュニティバスを利用している方にとって、使いやすいと思っただけのような利便性の向上を図っていく。

○委員

評価指標の目標について、必ず達成したい目標に合わせて必要な事業を計画していく考え方で、現状ベースに基づく考え方がある。今回は上位計画があるが、目標がかけ離れすぎていると目標の意味をなさない。今後目標を設定する場合は、状況に合わせて修正していくことが良い。

また、今現在バスを利用している方が歩けなくなったら今後も利用していくことは難しくなり、一方で、若い方は移動手段としてバスではなく、車を利用するため全体的に利用者が減少するのは当たり前。できれば車の運転をしたくないが、他の交通手段がないため仕方なく運転せざるを得ない状況である。それにより免許返納ができない方が2割弱いるという調査もある。公共交通の便利さを周知していくことが必要。

(2) 令和7年度コミュニティバス（定時定路線運行）の運行案について【協議】（資料2）

●事務局から説明

倉沢・富田コースの運行案について、第1便の上倉沢公会堂からJA河城支店の区間を小学校の長期休暇中は運休とするもの。現状として、長期休暇中は利用者がおらず空便となる。

この案については上倉沢自治会長、PTA、子ども会にそれぞれ承知を得ている。

丹野・嶺田コースの運行案について、西ヶ崎公民館バス停から堂山公民館までのルートを曲折のない直進のみのルートに変更するもの。現在は、令和3年度以降に自治会からフリー降車区間の設置要望があり運行改定されたルートを使用しているが、交通量が多く見通しの悪い道路を右折する必要があり危険であるため、次年度からは令和2年度以前使用していたルートを使用する。これについて、設置要望のあったフリー降車区間の利用者数を調べたところ、年間を通して利用者数が少ない状況。（令和5年度11人、令和6年9月時点25人）この件については堂山自治会長、フリー降車区間が設置されている班の班長さんと話し合いをしている。

意見・質問

○委員

丹野・嶺田コースについて、班長さんの意見はどうであったか。

●事務局

堂山自治会としては色々なご意見があった。今までは自宅の前からバスに乗れていたものが50m～100m離れていることで歩く必要が出てきてしまう。しかし地域の交通事情については自治会長さん、班長さんにご理解をいただいている。もう少し調整を図っていく。

○委員

本日の会議の承認はどうか。

●事務局

倉沢・富田コースについては地元との協議も済んでいるため承認をいただきたい。丹野・嶺田コースについては第3回の公共交通会議にてお示しさせていただき、令和7年度運行改定に間に合うよう進めていく。

○委員

倉沢・富田コースについては本日承認を得る。丹野・嶺田コースについては会議か書面にて承認を得る。このような形で進めていくのはどうか。

●事務局

そのようにさせていただく。

(3) 菊川市地域公共交通運賃料金協議会の完了について【報告】(資料3)

●事務局から説明

自主運行バス「萩間線」の運賃改定に関する菊川市地域公共交通運賃料金協議会について、令和6年7月12日(金)～8月9日(金)に市ホームページ及びバス停への掲示にて意見募集を行ったところ、提出件数は0件であった。その後運賃料金協議会を書面にて開催し、可決に至ったため8月23日(金)に協議が調ったことの証明書を提出した。

なお、これについては牧之原市、島田市、菊川市の共同運行路線であるため、3市それぞれが運賃協議の証明書をしずてつジャストライン株式会社に提出し、10月1日から運行改定が行われている。

(4) 菊川市地域公共交通計画策定における進捗状況について【報告】(資料4)

●事務局から説明

現在各種調査を行っており、調査結果が揃い次第、地区別意見交換会を行う。各種調査について、「市民アンケート調査」は15歳以上の市民を対象に2,000人の無作為抽出にて行う。「公共交通利用実態調査」は萩間線、菊川浜岡線の利用者を対象にヒアリング調査を行う。「高校生アンケート」は、常葉大菊川高等学校と小笠高等学校の2年生を対象にアンケートを行う。「主要施設ヒアリング調査」は、田子重小笠店、遠鉄菊川ショッピングセンター、菊川市立総合病院にて行う。「事業者アンケート調査」は第一通商株式会社様、菊川タクシー有限会社様、堀之内タクシー株式会社様にアンケート調査を行う。第3回の地域公共交通会議では、アンケート調査の結果等をご報告する。

意見・質問

○委員

直接関係はないかもしれないが、運転手の高齢化や運転手の確保について。菊川市として、若い運転手の育成や補助金制度などの計画はあるのか。

○委員

それについては経営者である第一通商さんやしずてつジャストラインさんに聞いたほうがいいのではないかと。

●事務局

現在、運転手の確保は全国的にも課題である。育成のために補助金を出すことも中々難しい。市で行っていることとしては、コミュニティバス時刻表の裏に記載しているような、「運転手募集」の広報活動のようなもの。人口が減少している中での人員確保は難しいところではあるが、このような形で協力をしている状況である。

○委員

補助金について、2種免許を取得すると補助金を事業者に出す、といった取組をしているところはある。

○委員

自衛隊は定年が55歳と早いため、取得した資格を第二の人生（運転手）に生かす働き掛けを行っている。タクシーやバスの運転手は接客も必要である。接客のような教育訓練をシステム化していくことで人員確保にもつながっていくのではないかと。

○委員

運転手の年齢は20歳以上から78歳くらいである。運転手の仕事を紹介すると、働き方改革、特に時間の制限や休暇の制限がある。バスも高齢者に頼っていかなくては運行できない状況。若い世代への紹介が求められる。

●事務局

いただいた意見については、他市の状況を確認しながら研究していく。

4 その他

●事務局

前回に公共交通会議にてご指摘をいただいたコース図・時刻表について、A3のものを作成した。下部に乗り継ぎ拠点であるJR菊川駅の時刻表と、しずてつジャストライン、関係するコミュニティバスの時刻表も併せて確認可能である。

これらは特定のコミュニティバスの車内や地区センター、HPへの掲載を考えている。

●事務局

八幡谷バス停の移設要望があった件について、移設が完了した。

●事務局

ハッピーライドin静岡について、小学生の運賃が免除になるにあたり、運賃料金協議会を書面にて開催させていただき、協議が調っていることの証明書を提出した。

■会長

本日の議事は以上で終了となる。進行を事務局にお返りする。

●事務局

その他、皆様からご意見、ご質問等ありますでしょうか。

●事務局

長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。
互礼をもって終了します。

以上